

山梨県の県樹が〈かえで〉ということで、山中湖村の小学校新入生は入学式に〈かえで〉の苗木を1本ずつ配布された時期がある。昭和53年と56年に、地元の小学校に入学した我が家の息子たちも、それぞれ1本ずつもらってきたので、玄関先にすぐ植えた。

人間も30年たてば大人に成長するのと同じく、50年に満たなかった〈かえで〉の苗木は、息子たちのそれぞれの性格をなぞるかのようになり、高さ、形、おまけに色づき方まで異なって、数倍に成長した。骨太で腰痛もちの長男の〈かえで〉は、雨がつつくと頭をぐっとたれて、苦しそうにするし、背高のっぽで気の多い次男の〈かえで〉は、ひよろひよろと伸びて、枝打ちに追われるほど、四方に小枝をのばす。

すでにこの村をはなれ、地方に住んでいた長男が腰痛で苦しんでいたとき、木もつらそうだったので、夫とふたりで枝うちをしてやったが、はたして本人の腰が快復したかどうか、もうおぼえてはいない。しかし、やはり村をはなれた次男が、都会ではちゃめちゃを繰り返したときは、偶然かもしれないが、枝打ちに若干の効果があった。

店の定休日に、食材の配達に来た人が、「見事に紅葉しましたね」と見上げたので、記念樹の由来を話した。その人は、深呼吸しながらしばらく2本の木の下に立っていた。そして、「入学式ねえ、そうか、入学式かあ」とつぶやいて、なんだか嬉しそうに帰っていった。